



まちの話題

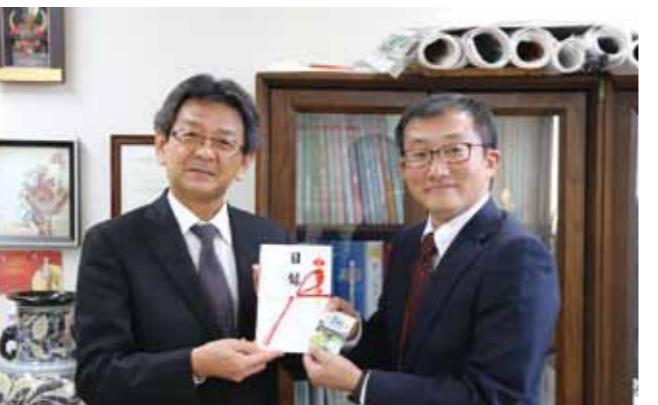
11/1 さらなる学習に役立てるために



出光大分地熱株式会社 岩井徹代表取締役社長から野矢小学校 藤永校長へ目録が手渡されました

出光大分地熱株式会社様より野矢小学校へ図書館の木製書架1台、音楽室の大型液晶モニター・ラックが各1台ずつ贈られました。野矢小学校体育館で贈呈式が行われ、出光大分地熱株式会社の方々へ、全校生徒で歌『ゆうき』を合唱するとともに、代表して児童会長の河野紗菜さんがお礼の言葉を述べられる等、学校から感謝の気持ちが伝えられました。

11/1 こどもたちの安全を守るために



(左から) 濱田教育長、九州労働金庫 玖珠支店 児玉光平支店長

九州労働金庫玖珠支店様より町内全小学校1年生・2年生へ反射マスコットのキーホルダー135個が贈られました。

九州労働金庫では20周年を記念し、地域社会への感謝を表す事業として未来を担う子どもたちを支援するために、小学校へ反射マスコットキーホルダーを寄贈されています。ご寄贈ありがとうございました。

11/4 九重町の特産品・椎茸を生産



椎茸ファーマーズスクールに入校された今枝吉伸さん、今枝幸江さん（写真1列目の右から2番目・1番目）

九重町で初めてとなる椎茸ファーマーズスクール入校式が九重町役場で開催されました。

入校された今枝吉伸さんと幸江さんは、「椎茸農業をしたいと考え探していたところ、九重町のきれいな景色にひかれ、またファーマーズスクールを知りました。一から学び、早く一人前になりたいです。地域の方々とも交流していきたいです」と抱負を述べられました。

九重の生しいたけが受賞しました！

11月16日に第33回大分県生しいたけ品評会が大分市で開催されました。

品評会には、大分県内で生しいたけを生産する個人団体から93点が出品され、九重町からは個人8名、1団体の入賞がありました。

入賞者	部門	受賞	副賞
坂本庸一郎		優等賞	林野庁長官賞
桙木公男		1等賞	大分県市長会長賞
坂本和世		1等賞	大分県町村会長賞
大分やまなみ		団体	
椎茸生産組合		準優勝	
永樂いずみ		2等賞	
佐藤栄作	原木	3等賞	
矢野晶世		3等賞	
矢野政治	菌床	3等賞	
佐藤茂幸		努力賞	

令和2年7月豪雨災害で被災され、ハウスの移転復旧を行われた、坂本庸一郎さんが林野庁長官賞を受賞、桙木公男さんが1等賞を獲得されるなど、産地としての高い生産技術をPRすることができました。

しだけ分かった。親を亡くしたり、虐待を受けたり、親が離婚したり。学校の先生も真剣に受け取ってくれず、逃げ場を失った心は非行に走ってしまう。仮に手を差し伸べてくれた大人がいても、薬物の色に染められてしまう。更生して刑務所を出ても、社会から白い目で見られる。それが社会復帰の妨げとなつて、再犯に至るケースもある。日本の受刑者の半分以上は再犯者だそうだ。

確かに、償えない罪を犯したのは受刑者。許されてはならない。けれど、その受刑者に罪を犯させたのは、周り

第71回“社会を明るくする運動”作文コンテスト
最優秀賞（大分県推進委員会委員長賞）

「あたたかい社会にするために」

九重町立ここのえ緑陽中学校 1年 岩下真理華

私は、奈良少年刑務所の受刑者が情操教育の中で書いた詩についての本『空が青いから白をえらんだのです』を読んだ。以前は、「非行」と聞くと、怖かっただし、あるいは自分には関係ない、自分はそんなことはしないと思っていました。

この本を読むと、受刑者の背景が少

いらしい、親の離婚はなさそうで、校の先生もよくわかってくれる。それでも、生きてきた中で「辛い」と感じていたことは数えきれないほどある。受刑者の方がどれほどの苦痛を感じているかは、想像もできない。それを責めは受刑者だけにあるのか。その疑問はずつと、頭から離れないでいた。

私は、奈良少年刑務所の受刑者が情操教育の中で書いた詩についての本『空が青いから白をえらんだのです』を読んだ。以前は、「非行」と聞くと、怖かっただし、あるいは自分には関係ない、自分はそんなことはしないと思っていました。

この本を読むと、受刑者の背景が少

いらしい、親の離婚はなさそうで、校の先生もよくわかってくれる。それ

を犯した人への偏見や差別がなくなり、そういった方々をあたたかく迎え入れる社会になつた時だ。

そうすれば、再犯だけでなく、初犯を犯しそうな人の苦しみを聞いてあげられる人がいるなら、初犯をも未然に防げるのではないか。

偏見を取り除くためには、まず知ることが大事だと思っている。受刑者の苦悩を知っている人は、果たしてどれくらいいるのだろうか。

私は、この詩集を読んで初めて知った。本当にことを知りもしないで、勝手に「怖い」と感じたり、「自分には関係ない」と決めつけたりしていたのだ。事実を見つめることなしには、何も始まらないし、一人一人が変わらないと社會も動いていかないと思う。

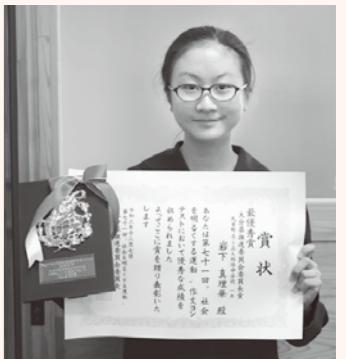
私は、自分自身が悩みを抱え込ま

夏休み中に、ピア・サポーター養成講座があつたけれど、あまり興味がないと社會も動いていかないと思う。私は、この本を読んでも始まらないし、一人一人が変わらなければ、私たち一人一人にできることがある。身の回りからあたたかい地域の大輪を作ることだ。そして、その輪がつながつて一つの大きな輪となり、「社会」と呼ばれるようになれば、それが一人残らず入れてくれるならば、もう二度と犯罪や非行は起こらないに違いない。

“社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

▶ 地域のチカラが犯罪や非行を防ぐ

テレビや新聞では、毎日のように事件や犯罪のニュースが報道されていますが、安全で安心な暮らしはすべての人の望みです。犯罪や非行をなくすために、取締りを強化して罪を犯した人を処罰することも必要なことです。しかし、反省と償いを経て地域に帰ってきた人を社会で受け入れていくことや、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりをすることもまた、とても大切なことです。立ち直りを支える家庭や地域をつくる。そのためには、一部の人たちだけでなく、地域のすべての人たちがそれぞれの立場で関わっていく必要があります。“社会を明るくする運動”では、犯罪や非行のない地域をつくるために、一人ひとりが考え、参加するきっかけをつくることを目指しています。



岩下真理華さん